

身近な情報を実践活動に生かす特別活動
— 6年「学級の進化」を目指した実践を通して —

名古屋市立H小学校

1 研究のねらい

私はよりよい学級を目指して、活動に取り組むことができる児童を育てたい。そのためには、児童一人一人が学級目標の達成を意識して、活動に取り組むことが大切であるとする。

本学級の児童は、目標が分かりやすい活動には集中力を発揮して取り組むことができる。しかし、その場の楽しさを優先してしまうため、活動の途中で諦めてしまうことが多い。これは、取り組んだ活動において成長を感じていないことや、今回の活動の成果が次の活動につながっているという実感がもてていないためと考える。そこで、活動をくり返す中で、自他の成長をとらえ自分や友達の成長が学級の成長につながっていくと実感できることが大切であると考えた。

そこで、次の2点に重点を置き、実践に取り組むことにした。

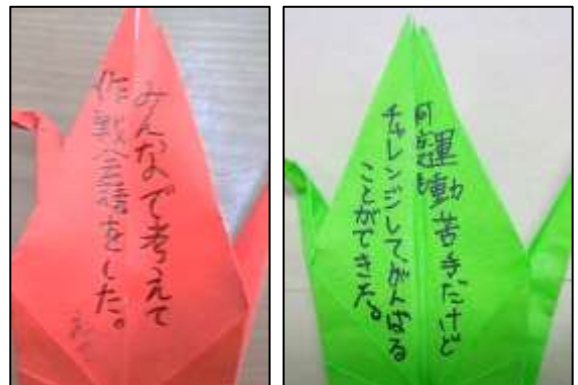
- 児童が自分や友達の成長を意識できるようすること
- 自分や友達の成長が学級の成長につながることを実感できるようにすること

2 研究の内容（対象：6年生 27人 男子 15人 女子 12人）

(1) 基本的な考え

○ 児童が自分や友達の成長を意識できるようにするための…「折り鶴」

本学級の学級目標は「進化」である。年度始め、学級のどのようなことが進化すると1年後に最高の姿で卒業式が迎えられるかについて、児童に問い掛けた。すると、児童から「絆」「スマイル」「心」「チャレンジ」を4種類の進化を高めたいという意見が出てきた。さらに話を進め、「絆の進化」に対しては「みんなで協力」「だれとでも話せる」ということ、「スマイル進化」に対しては「いつも笑顔」「人によっ



【児童が自分や友達の成長を記入した折り鶴】

て態度を変えない」ということなど、具体的な行動を考えることができた。そこで、活動を通して自分や友達の成長を感じることができた際には、それぞれの進化に決められた色の折り鶴を作り、その折り鶴の中に自分や友達の活動の成果を書くようにする。この活動によって、どのような活動がどのような進化につながったのか分かるようになると思う。

○ 自分の成長が、学級の成長につながることを児童が実感できるようにするための…「千羽鶴」

児童の成長が書かれた折り鶴は、進化の内容（色）ごとに分け、教室の背面に掲示していく。これによって、個人の成長が学級全体の成長につながっていることを児童が実感できるようになると考える。折り鶴を活用した一連の活動の最終目標は、「H小」にちなんで、「千羽鶴」の完成とする。卒業式には、児童の1年間の成長が書かれた千羽鶴を飾りたい。児童には進化の証である千羽鶴とともに、最高の姿で卒業式を迎え、次の世界にはばたいていってほしいと願っている。



【背面掲示されている鶴】

(2) 実践の流れ

統計的な手法を活用し、次のように実践を進めていこうと考えた。

流れ	活動の場	活動内容
とらえる	学級活動	前回の活動を振り返り、自分や友達の成長を意識する。
あつめる	朝の時間	活動の振り返りで作って折り鶴を色ごとに集める。
まとめる	休み時間	色ごとに分けた折り鶴の数を棒グラフに整理する。
よみとる	学級活動	まとめた棒グラフを見て次の活動で高めたい進化について話し合う。
生かす	学級活動	「6×1祭」を計画し実行する。

(3) 実践の内容

① 題材名

さらに、学級を進化させよう

② 目 標

活動を通して、自分や友達の成長を意識することができるようにする。また、その成長が学級の成長にもつながっていることを実感することができるようにする。

③ 統計教育上の指導目標

背面掲示されている折り鶴から、学級の進化がどれだけ進んでいるかを理解し、学級の成長を実感する。その上で、更なる成長のためにはどのような活動が必要かを考え、活動できるようにする。

④ 活動の実際

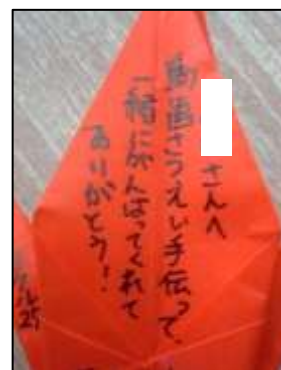
【とらえる】・・・学級活動 **これまでの活動を振り返り、自分や友達の成長を意識する**

前回の学級会では、自分たちは心の進化とスマイル進化が足りていないという話合いになった。そこで、学級で動画を作っていこうということが決まった。相手のことを考えながら動画を撮影することで心の進化(優しさ)を高めていきたい。動画を見てスマイル進化(笑顔)を高めていきたいという思いで企画した。

自分たちの特技紹介やみんなが驚くような内容の動画撮影が始まった。バスケットゴールに3人連続でシュートを決めたり、あっと驚くようなマジックショーをしたりと、みんなが笑顔になるような動画を作ることができた。児童は、振り返りの折り鶴に「笑顔になることができた」や「動画を一緒に撮ってくれてありがとう」などの成長を感じる言葉を記入していた。そして、今まで掲示されていた折り鶴に加え、今回の動画作りの活動での折り鶴が増えたことで、自分自身や学級の成長を感じることができるものであった。



【協力して動画撮影をしている様子】



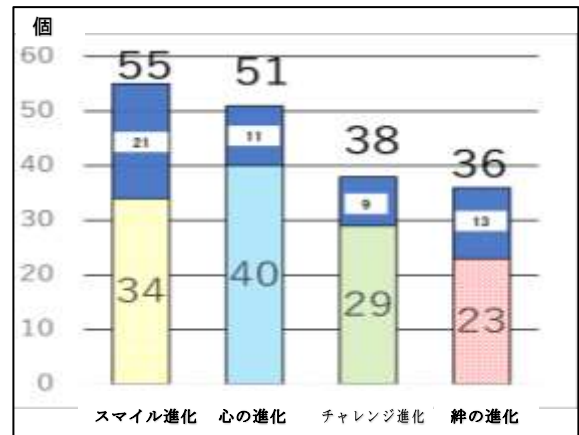
【友達に向けて送られた折り鶴】

【あつめる】・・・朝の時間 **活動の振り返りで作った折り鶴を色ごとに集める**

背面掲示を見ると無数の折り鶴が掲示されているが、児童から「数が分りにくい」「パッと見てどれが少ないか分りにくい」という発言が聞かれた。動画作りで折り鶴が増えたが、増えすぎたことで自分たちの強みが分かりづらい状況であった。そこで、計画委員を中心に今まで作ってきた折り鶴と今回の活動で作られた折り鶴を分けて色ごとに集めることにした。

【まとめる】・・・休み時間 色ごとに分けた折り鶴の数を棒グラフに整理する

計画委員の児童と教師が相談をして、今現在の進化の状況を分かりやすくするため棒グラフにして表すことにした。今までの活動で作られた折り鶴に加え、学級動画の折り鶴がいくつ足されたかが分かるよう、右のような棒グラフに表した。



【よみとる】・・・学級活動

まとめた棒グラフを見て次の活動について話し合う

【計画委員の児童が作成したグラフ】

完成した棒グラフを提示し、このグラフから次の活動を考えられないか、学級の児童に問い掛けた。すると次のような意見が出された。

- C 1 : 一番少ないのは絆の進化だね。
- C 2 : 一番増えなかったチャレンジを次回の活動で増やしていきたい。
- C 3 : 一番多い笑顔を増やすといいと思う！笑顔になれば優しさにもつながると思う。
- T : 前回の活動からの鶴の増えたところを見るとどうかな？
- C 4 : チャレンジ進化は増えた数が少なかったけれど、絆の進化が一番少ないから絆の進化を伸ばしていけることがいいと思う。
- C 5 : 単純に一番少ない絆を増やしていきたい。結局絆の進化を伸ばしていくと、他の進化も伸びてくると思う。
- C 6 : 全ての進化を同じくらいにしていくことで、最高の進化につながるような気がする。
- T : では、これから自分たちに必要な進化はなんだろうね。
- C 7 : 絆の進化は、一番成長させたいところで仲良くなりたいです。
- C 8 : 絆とチャレンジが少ないので、これらを高められる活動がいいと思います。

グラフから、やはり少ない項目に目を向ける児童が多かった。強みを高めようということに着目する児童は少数であった。そこで、絆の進化やチャレンジ進化を高めるにはどのような活動ができるかを考えた。話し合いの中で、ある児童から「チャレンジは挑戦だから、今までやったことのないことをしたい」という意見があった。その意見に多くの児童が納得した。

その上で、絆の進化を意識してできる活動について考え、ある児童から「1年生に何かしてあげたい」という意見が出てきた。6年生として1年生に楽しんでもらう企画をすることで



【学級会の様子】

チャレンジの進化を高めていくことができる。また、楽しいと思ってもらえる企画を通して、1年生との関わりを深める、6年生同士の絆を深めることができるのではないかと考えた。そこで「6×1祭」と称したお祭りを1年生に向けて行うことになった。

【生かす】…学級活動「6×1祭」を計画し実行する

活動を始める前に、今回はロイロノートのテキストに目標を書き込んだ。目標を書き込むことで、児童がこれまで以上に目標を意識して活動できるようになると考えた。

その後、話し合いで、活動していくためのグループ決めることになった。教師が「グループはどのように決めますか」と問いかけると、「絆の進化を高めるから誰と同じグループになってもいいよ」や「その通りくじでいい」という意見が出た。そこで普段はあまり話す機会が少ない友達とグループを組むことになった。その後、くじでグループ決を行い、各グループで1年生が楽しめる企画を考えた。ここで決まった企画は「的当て」「ピンポンカップイン」「簡単ボウリング」などであった。準備をしていく中で、協力して用意したり、声を掛け合ったりしている姿が見られた。

「6×1祭」当日、1年生が楽しんでいる姿がそこにはあった。6年生もたくさんのお客さんが来るように声掛けをして一生懸命に盛り上げようとしていた。6年生同士でも、声を掛け合い1年生が楽しく過ごせるために活動していた。

活動後に、成長の証である折り鶴を作った。折り鶴には、「お店を盛り上げてくれたおかげでたくさんのお客さんが来てくれた」や「1年生の目線に合わせて、笑顔で接することができた」と記述があり、個人での成長を実感することもできていた。また、絆の進化が52個、チャレンジ進化が9個、スマイル進化が4個、心の進化が13個増えた。児童は背面に飾られた鶴を見て、学級全体での成長を実感することができた。

(4) 成果と課題 (○：成果●：課題)

- とらえる場面では、背面掲示された鶴の数に着目して、自他の成長を意識できるようにしたことで、これまでの活動における個人や学級の成長を児童が実感することができた。
- 絆の進化を高めるための活動を行い、振り返らせたことは絆の進化を増やすことができ、自他の成長が学級の成長につながることを実感させることができた。
- 目標としていた、チャレンジ進化が思うように増えなかった。しかし、これは1年生に対して優しく接することができた」や「活動を通して笑顔になれた」など、他の進化の方がより進化したと思う児童が多かったからだと考える。

3 研究のまとめ

「6×1祭」後のある日の休み時間、学級の児童が校庭でバレーボールをしていた。その様子を眺めていると、「まずは、10回続けよう」という会話が聞こえ、児童は友達と共に協力して取り組んでいた。

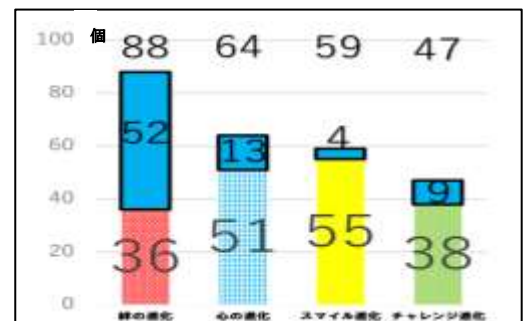
背面掲示されている折り鶴にも変化が見られた。実践当初に比べて、折り鶴に書かれている記述がより具体的に自分や友達の成長を感じる記述になっていた。また、増えていく折り鶴を見ている児童から「たくさん成長できているね」という発言も聞かれて学級の成長を感じることもできていた。児童自らが「学級をもっと進化させたい」「最高の姿で卒業式を迎えたい」と思えるよう、学級の児童と共に進化の折り鶴を増やしていきたい。今後も、統計的手法を効果的に用いて、児童自身が成長できたと感じられるような活動をしていけるようにしたい。

4大目標の何を高めたいか(個人)	チャレンジ進化
1年生にどうやったら楽しんでもらえるかとか、実際にやるかそれ考えたらチャレンジになるから。	
4大目標の何を高めたいか(集団)	絆の進化
絆とチャレンジが少ないから1年生と祭りをやって絆を深めていこうって学級会で決めたから	

【児童が考えた目標】



【「6×1祭」で活動している様子】



【「6×1祭」後の折り鶴の数】